フィールド（現場）からの風 ㉕⑤

宮田守男

時間が経過しても地域を支援いただいた関係者を語り続けなくてはと改めて心に誓う

9月、長野市の広告代理店・株式会社共立プラニングの創業者である林和人さんの悲報が届く。白馬村を舞台に展開された長野オリンピック・パラリンピック白馬会場を支援いただいた功績者だが、その活躍を知る人は少ない。当時世紀の祭典オリンピックのマーケティング業務は、日本最大の広告代理店・電通が取り扱っていた。だが、会場地での盛り上がりを目的にした業務には、ほとんど無関心で、それらの経費確保が大きな課題だった。

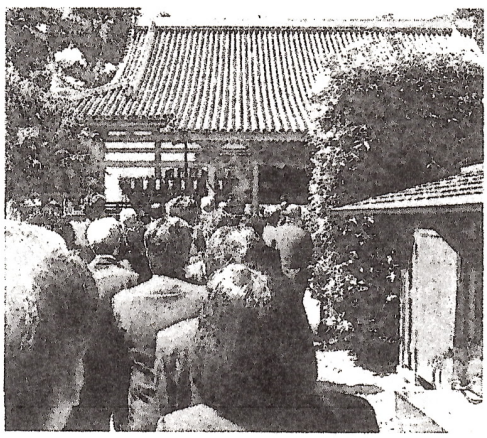
白馬村では、官民で実行委員会を組織して対応に当たった。だが事業展開のノウハウは全くの素人集団、そんな時、放送業界の知人から林さんを紹介された。

小さな村の1課長が、直接会うことができない前例の中、社長室を訪ねることができた。目的は、人材面での協力要請。既に会社では、世紀のオリンピックで長野県企業自らがチャレンジしようと多くの若手社員を雇用していた。人材協力に最初は躊躇（ちゅうちょ）してたが、世界を舞台にスポーツマーケティング活動を企画している内容に興味を示してくれた。スポーツマーケティングとは、スポーツを活用した街づくりやブランドのイメージ向上、スポーツを利用した広告などのことだが、当時の長野県広告業界では未開拓の部門でもあった。

早速、派遣社員の選考について社長命令が下された。そして畠山憲吾さんが白馬実行委員会に常駐し大活躍したことは関係者の知るところだ。林さんは、信越放送で活躍後退職して広告代理店業を創業、多くの事業を手掛け長野県トップクラスの企業に育て上げた経営者として著名な方だが、温和な人間性と先験的な事業展開はとても魅力だった。いつも事業の組み立て方に関心を抱き、熱心に質問攻めになった。世紀のイベントを舞台に長野県人自らが取り組みたいとの意志の強さには何時も驚きを覚えた。全体の流れが大切と、赤字覚悟で支援いただいたイベントも多かった。

オリンピック後も白馬のためにと、多くの事業展開の種をまいていただいた。お酒は嗜（たしな）まず、愛車で、長野市内の企業経営者のご婦人達を誘って白馬の飲食店を数多く訪ねていただいた。長野市周辺から飲食を目的に白馬を訪れる文化を定着させたのも林さんの残していただいた財産だ。場面・場面で、地域を支援いただける方がいる。その人達に末永く思いをはせることを忘れてはいけないと感じた時でもあった。

（NPO法人信州地域社会フォーラム理事・白馬村森上）



葬儀及び告別式に大勢の参列者、長野オリンピックから二十年、顔見知りが限られ寂しさ感ずる